

6章「スクリプト」

中島康彦

§6. 0 今日の作業ディレクトリを作る

1. % `cd` ⇒ ホームディレクトリへ移動
2. % `mkdir chap06` ⇒ ディレクトリchap06を作成
3. % `cd chap06` ⇒ ディレクトリchap06へ移動
4. % `pwd` ⇒ 作業ディレクトリの確認

今日は、簡単なプログラムに挑戦.

マウス操作は、同じ操作の繰り返しには、実は不向きです.

§6. 1 スクリプトの主な実行環境

キーボード操作は再現できるが、マウス操作は再現できない。
再現する手段が、スクリプト

- ▶ sh
最も古くからあるシェル
- ▶ csh
shに、C言語に似た文法を採り入れたもの
- ▶ tcsh
cshに、mule (emacs) に似たコマンドライン編集機能を採り入れたもの
メディアセンターのログインシェルでもある
- ▶ perl
Practical Extraction and Report Language
さらに高度な文字列抽出、文字列処理が可能
上記シェルとの互換性はない
サーバ上での文字列処理によく使われる

§6. 2 簡単なシェルスクリプト

1. % **vi hello**
 2. **iecho "Hello."** [Enter] **date** [Esc] ZZ
echo "Hello."
date■
~
 3. % **sh hello** ⇒ shによる実行
Hello.
2000年04月24日 11時21分08秒
 4. % **csh hello** ⇒ cshによる実行
Hello.
2000年04月24日 11時21分18秒
 5. % **tcsh hello** ⇒ tcshによる実行
Hello.
2000年04月24日 11時21分28秒
-

§6.3 シェルスクリプトのファイルモード

1. % `./hello`
`./hello: Permission denied.`
2. % `ls -l hello`
+-----user---r- 所有者による読み取り
|+-----user---w- 所有者による書き込み
||+-----user---x- 所有者による実行/ディレクトリ検索
|||
`-rw-r--r-- hello`
3. % `chmod a+x hello` ⇒ 実行の許可
% `ls -l hello`
`-rwxr-xr-x hello`
4. % `./hello` ⇒ 特に指定しない場合shによる実行
`Hello.`
`2000年04月24日 11時21分48秒`

§6.4 コマンドサーチパス

1. % `echo $path` ⇒ コマンドサーチパスを表示
この順にコマンドが検索される
`/home/vine/Bin /usr/sbin`
 2. % `mv hello ~/Bin` ⇒ `hello`を各自のBinディレクトリに移動
 3. % `hello`
`hello: Command not found.`
 4. % `rehash` ⇒ コマンドの存在を認識させる
 5. % `hello` ⇒ どこにいても~/Bin/helloを実行
`Hello.`
`2000年04月24日 11時21分48秒`
 6. % `~/Bin/hello` ⇒ パス指定でも実行可能
`Hello.`
`2000年04月24日 11時21分48秒`
-

§6.5 sh以外のシェル指定

- ▶ 先頭行が `#!/bin/csh` の場合, `csh` が解釈実行
- ▶ `#!/bin/tcsh` の場合, `tcsh` が解釈実行

1. `% vi ~/Bin/hello`
2. `dGi#!/bin/csh[Enter]`
`#!/bin/csh`
■
~
3. `echo "Hello. by" $shell[Enter]date[Esc]ZZ`
`#!/bin/csh`
`echo "Hello. by" $shell`
`date`■
~
4. `% hello`
`Hello. by /bin/tcsh (実体はtcsh)`
`2000年04月24日 11時21分58秒`

§6.6 csh用スクリプト

- ▶ 1章からのコマンドに加え, 以下の記述が可能.
- ▶ `csh`用の記述は`tcsh`でも動作するため, プロンプトに対する通常のコマンド入力にも応用できる.

- ▶ 引数渡し

- 1-1. コマンド名および引数1~9の取り出し

```
% vi test1
#!/bin/csh
echo $0, $1, $2, $3, $4, $5, $6, $7, $8, $9
echo $*
```

- 1-2. 実行例

```
% chmod a+x test1
% ./test1 a b c d e f g h i j k
./test1, a, b, c, d, e, f, g, h, i
a b c d e f g h i j k
```

§6. 6 csh用スクリプト(続き)

▶ 変数への代入

2-1. 引数, 標準入力, ファイルを変数へ代入し加算

```
% vi test2
#!/bin/csh
set i1=$1                ⇒ 引数1から
set i2=$<               ⇒ 標準入力から
set i3=`cat counter`    ⇒ ファイルcounterから
@ i4=$i1 + $i2 + $i3
echo $i4 > counter      ⇒ ファイルcounterへ
echo i1=$i1 i2=$i2 i3=$i3 i4=$i4
```

2-2. 実行例

```
% chmod a+x test2
% echo 10 > counter
% ./test2 1
2
i1=1 i2=2 i3=10 i4=13
```

§6. 6 csh用スクリプト(続き)

▶ 条件分岐

3-1. 標準入力の偶奇を表示

```
% vi test3
#!/bin/csh
echo -n "input number >"
set i=$<                ⇒ 標準入力から
if ( $i % 2 == 0 ) then ⇒ 2で割った余り
    echo "even"         ⇒ 0の場合偶数
else
    echo "odd"         ⇒ 0以外の場合奇数
endif
```

3-2. 実行例

```
% chmod a+x test3
% ./test3
input number >2
even
```

§6. 6 csh用スクリプト(続き)

▶ ループ

4-1. 特定の文字が入力されるまで、入力データをファイルへ書き込む

```
% vi test4
#!/bin/csh
echo -n > data4           ⇒ ファイルdata4を空にする
echo -n "input data >"   ⇒ プロンプトの表示
set i=$<                  ⇒ 標準入力から
while ( $i != e )         ⇒ 入力がe以外の間, 続ける
  echo $i >> data4        ⇒ 入力をファイルdata4へ追加
  echo -n "input data >" ⇒ プロンプトの表示
  set i=$<                ⇒ 標準入力から
end
cat data4
```

4-2. 実行例

```
% chmod a+x test4
% ./test4
input data >123
input data >efg
input data >e
123
efg
```

§6. 6 csh用スクリプト(続き)

▶ ループ

5-1. 複数ファイルの処理

```
% vi test5
#!/bin/csh
foreach i ( test[1-3] )   ⇒ test1~test3が順に変数iに代入される
  sed "s/^\$/i\:/ " $i    ⇒ 行頭をtestX:に置き換える
  sleep 2                 ⇒ 2秒間停止する
end
```

5-2. 実行例

```
% chmod a+x test5
% ./test5
test1: ...
test2: ...
test3: ...
```

注意: sedの引数が" "ではなく' 'の場合、行頭がファイル名ではなく\$i:となる。
sedに限らず" "内部のシェル変数は展開され' '内部は展開されない。

```
$i: ...
$i: ...
$i: ...
```

§6. 7 今日の課題

講義中に作成したファイルtest5の実行結果をメールせよ.

宛先: nakashim@econ.kyoto-u.ac.jp

件名: unix1-学生番号

名前(忘れずに)

今日はここまで